



ふくおか【Good👍】農業人100  
 主な農産物／米、野菜

# 片桐 慎さん (38歳) (営農地／田川郡川崎町)

## 心の写真に映ったものは「農ある暮らし」だった

### 《就農のきっかけ》

田舎で農ある暮らしを楽しみたい。

出身は東京都。大学卒業後、プロの写真家を目指しフォトスタジオのアシスタントとして働き始めました。仕事は多忙を極め、日々の仕事をこなすことで精いっぱいでした。フォトスタジオ社長との価値観の違いから退職を選択しました。退職後始めた家庭菜園がきっかけで、「田舎で農ある暮らしを楽しみたい。」と思ったことから“脱都会生活”を決断しました。

全国のいくつかの候補の中から、家と農地が即借りられる条件を重視しました。最終的には、友人の両親が所有していた物件を見に行き、気に入ったことから即決で福岡県田川郡川崎町へ移住しました。

### 《これまでの過程》

倒れて、そこで我に返りました。

川崎町へ移住した当初は、「せっかく田舎に移り住んだのだから、やっぱりお米は自給自足したい」と考え、桂川町で無農薬・無化学肥料での水稻栽培を実践している農家の元で10か月間研修を受けて独立就農しました。

独立してからは「農業で自給自足生活を」という「農業の枠」にこだわった生活をしていましたが、金銭的に苦しかったこと、オーバーワークで倒れるなどが重なり、そこで我に返りました。

農ある暮らしを楽しむつもりが、「農業の枠」にこだわりすぎたため、移住当初の目的である「農ある暮らしを楽しむ」ことができなくなっていました。そのことに気付いてからはこだわりを捨て、北九州市や地元などの30戸の家庭に米・野菜・卵などを宅配するとともに、食育ボランティアの講師などの副業で生計を立て、「農ある暮らしを楽しむ」ことを重視した生活を送っています。



#### プロフィール

- 家族構成／本人、妻、子ども1人
- 前職／写真事務所(アシスタント、プリンター)
- 営農年数／約8年 ■耕作(経営)面積：1.5ha ■販路／直売

### 《これからの展望》

農業・農村は「夢」を実現できるところ。

片桐さんは、移住後から現在まで、携帯電話を持たない・テレビを見ない生活を楽しんでいるそうです。また、「合鴨等を活用した無農薬・無化学肥料栽培で米や数多くの作物を育て、農産物を個人に宅配し生計を立てるなど、このような、ゆっくりとしたリズムが私には合っていると感じます。」と語ってくれました。「川崎町に移住した当初は迷いもありましたが、サラリーマン生活では得られなかった充実感を田舎暮らしで実感できています。農業・農村は『夢』を実現できるところ。楽しい不便さもあるが、知恵や人脈を大切にゆっくりと、そして着実に地元へ根づいた暮らしを続けたいと思っています。



### Good👍 成功のためのポイント

今から思えば、就農当初から付けている日記が“就農のバイブル”となっています。新規参入を目指す方は、是非とも日記をつけることをお勧めします。